

指定校番号	30010	学級活動	児童会活動	クラブ活動	○	学校行事
-------	-------	------	-------	-------	---	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立宮内小学校	校長	佐々木 泰治	生徒指導主事	和田 清徳
-----	------------	----	--------	--------	-------

**取組事例名** 『自己有用感を育てる～子どもが休まない学校づくり～』

**取組における育てたい資質・能力**

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「表現力」	1	「主体性」	2	「自らへの自信」	3

**取組のねらい** 『キーワード 学校みんなでつながろう』

学校全体で同じ取組を行うことで、子ども同士が友だち、先生とのつながりを感じることができ、安心して学校に通うことができるようにする。

**取組の具体的内容** 『キーワード 1年間を通して』

○異学年交流

- ・運動会（5月）、学習発表会（10月）の練習時にはペア学年（1年生⇔6年生 3年生⇔5年生 2年生⇔4年生）同士で練習を見合う取組を行い、行事終了後にお互いのよかったところ、素晴らしかったところ等を手紙に書き、送り合った。
- ・2年生⇔5年生でペア児童を決め、九九を聞いてもらい、合格したらサインをもらう取組を行った。



○「ほめほめの木」

- ・年間を通して教職員が児童のよかったところ、素敵などころ等をカードに書いて伝えた。
- ・学習発表会後に同学年だけでなく、他学年のよかったところを児童がカードに書いて伝えた。また、保護者にもよびかけ、書いていただいた。



○「命の大切さについて考える日」「いじめ防止月間」

- ・「命の大切さについて考える日」（5月）には、児童朝会で運営委員会児童が全校でのいじめ防止スローガンを掲げ、各学級でのスローガン作りを呼びかけた。
- ・「いじめ防止月間」（12月）には、児童一人一人がいじめをなくすためにできることを考え、カードに宣言を書き、それを全児童が見えるところに掲示し、互いの宣言を知る取組を行った。また、一人一人が宣言に基づいた行動をとるよう運営委員会児童が呼びかけるとともに、お互いにされてうれしいことや感謝したいことを見つけ合いカードに書く「ほめほめ作戦」を行った。



○「6年生を送る会」

- ・6年生を送る会（2月）に向けて「6年生ありがとうの木」を3学期に掲示し、1～5年生児童が6年生にメッセージをカードに書き、掲示し、感謝の気持ちを伝える。

○児童朝会の設定

- ・今年度、児童朝会を月1回行い、各委員会が取組を発表する等、児童の活躍の場を広げるようにした。

○掃除の取組

- ・全校朝会で掃除の仕方を映像を使って全児童で再度確認し、全教職員で見回り指導を行った。掃除終了後に「掃除の神様メッセージカード」を渡し、評価を行っていった。
- ・「だまって掃除週間」を設定し、各掃除場所に掲示されている掃除評価表に毎回掃除担当職員がだまって掃除ができていたらシールを貼り、声かけをするなどして児童の頑張りを評価していった。



**取組の課題・創意工夫『キーワード 気づく・気づき合う』**

- ・お互いのいいところを伝え合うことで、児童自身が自分のいいところに気づかせるようにした。また、自分が気づいていなかった内面を知ることができるようにした。
- ・「〇〇さんにはこんないいところがあるのだ。」と他の児童が書いたカードからいろいろな人のいいところを見つけることができた。
- ・アセス（学校環境適応感尺度）の非侵害的関係の結果において1学期61から2学期60と少し数値が下がった。児童が安心して登校できる取組を引き続き行っていく必要がある。
- ・今後は児童が主体となっていいところを発信していける取組を行っていく必要がある。

**取組の成果（効果）『キーワード 自己肯定感・自己有用感の育み』**

「自分にはこんないいところがあるのだ。」「自分はこんなところで役に立っていたのだ。」と児童が気づき、書いてもらってうれしかったと言う児童もいた。児童の自己肯定感・自己有用感を育むことにつながった。

**今後の展開『キーワード 学校全体で評価していく』**

取組を行っていく中で「他の学年の先生にほめてもらってうれしかった。」「もっとほめてもらいたいから掃除を頑張る。」という児童の声が聞かれた。「友だちがあなたのいいところを知っているよ。」「宮内小学校にいる全ての先生があなたの頑張りを見ているよ。」と児童に実感させる取組を続けていきたい。

**他教科との関わり『キーワード よかったところをその場でほめる』**

各授業時間は児童にとって学校生活を送る中で長い時間を占めている。その中で、児童はキラリと光る言葉、行動を見せることも多い。それを見逃さずその場ですかさずほめていく。